

群 教 セ	G03 - 02
	平25.251集
	小・道徳

よりよい自分になろうとする心を育てる 道徳指導の工夫

—交流場面における心情円板の活用を通して—

特別研修員 小宮 由里子

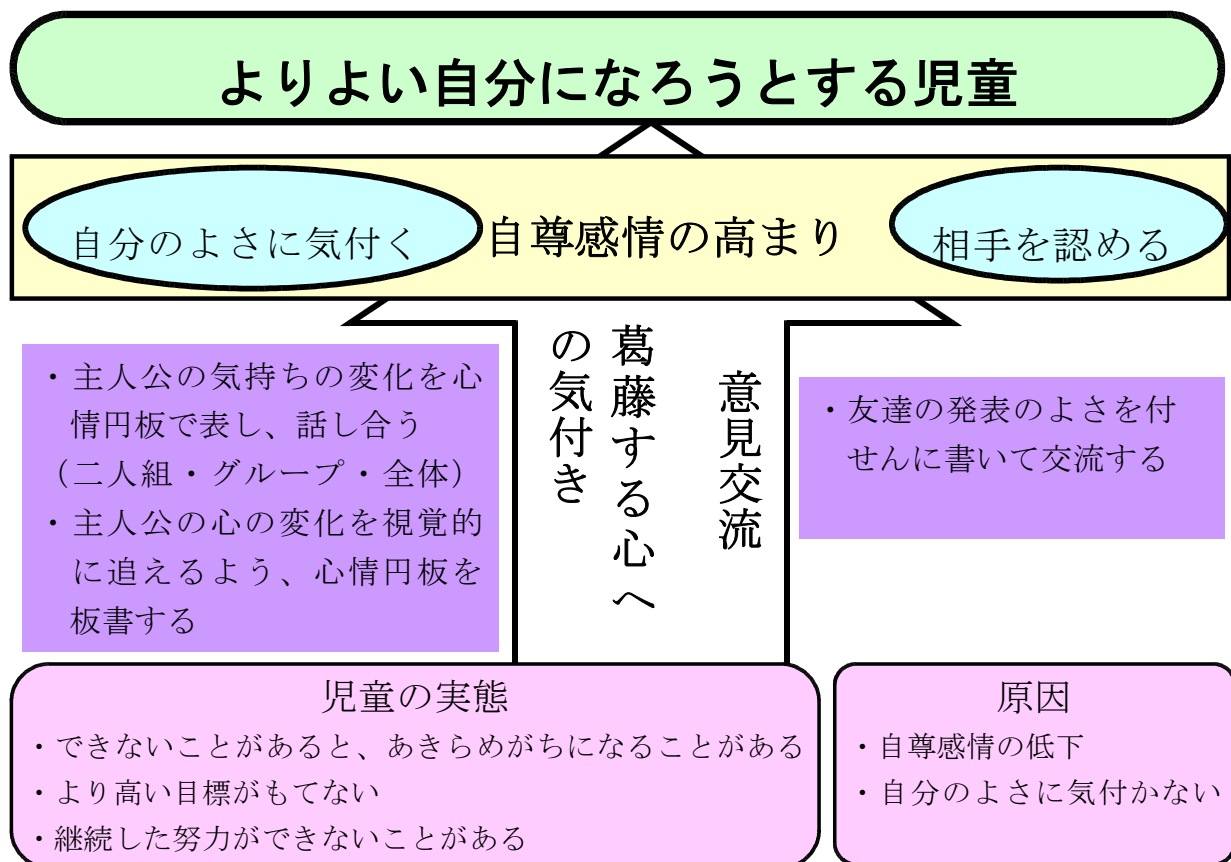
I 主題設定の理由

小学校中学年の児童は、物事に対しすぐにあきらめず、新しい分野に挑戦することが期待される。「全国学力・学習状況調査」においても、自分のよさの認識や計画的な学習の取組に課題が見られた。自尊心がある程度高まった状態でないと、自分も他人も素直に受け入れられず、自分からみんなのために動いたりよりよい自分になろうと努力したりすることにもつながらない。また、「はばたく群馬の指導プラン」の「向上する心」の中では、「自分のよさに気付き、夢や希望をもつこと」を重要視している。

そこで、道徳の時間において、心情円板を用いて、資料における主人公の気持ちやその理由を話し合う中で、葛藤する思いに気付かせる活動を取り入れる。自分だけでなく、だれでも気持ちの弱さを抱えており、それを克服しながらよりよく生きようとしている。それに気付くことで自分自身を振り返り、よりよい自分になろうとする心も育っていくと考え、本主題を設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手だて

資料「文字を書く喜び」(中心価値：努力・忍耐)(第4学年・10月)において、資料についての話し合い場面で主人公の葛藤する気持ちを深く考えさせるために、児童が二人組で自分の考えを伝え

合う活動を位置付け、以下の点に留意して実践を試みた。

実践1における研究上の手だて

- ・ 中心発問において心情円板を使い、自分の考えを視覚化し、主人公の葛藤する思いやその理由を話し合う。
- ・ 心情円板と関連付けながら、児童の思考の流れを意識した板書を行う。

中心発問において、心情円板（消極的な心情を表す部分・水色と積極的な心情を表す部分・桃色の二色の円板を重ね、心情の割合を表したもの）を個々で操作する活動を取り入れたところ、主人公が「どうしても字を書けるようになりたい」「でも、できないかもしれない」「あきらめてしまおうか」「でも、がんばりたい」と、積極的な気持ちと消極的な気持ち、両方の意見が出た。他の学級で実践したときには、「がんばろう」という前向きな気持ちの意見のみで話合いが深まらなかったことを考えると、心情円板を使い消極的な気持ちに着目したことで、主人公の葛藤する内面に一方だけでなく、二つの心について理解できたので、話合いを進める上で有効だった。

そこで、すべての発問で心情円板を使うことによりさらなる授業の活性化が図られると考え、資料「うれしく思えた日から」（中心価値：個性伸長）（第4学年・12月）では、次のような手だての工夫を加えた。また、児童同士の認め合う場を設定することで、さらによいところを伸ばそうとする意欲を引き出したいと考え、追加の手だてを行った。

実践2における研究上の手だて

- ・ すべての発問において、個人で心情円板を操作し、色の配分をもとにしてなぜそう考えるのかを伝え合う。
- ・ 心情円板と関連付けながら、児童の思考の流れを意識した板書を行う。
- ・ 振り返りの場面で、友達の発表のよさを付せんに書いて交流する。

児童は、すべての発問で、自分の手元にある心情円板を操作しながら、消極的な考えをもっている主人公が前向きに変わっていく心の変化をしっかりと感じ取ることができた。板書にも心情円板を取り入れたため、主人公がだんだんと前向きになっていく様子が視覚的にとらえやすくなった。さらに、考えのよさを付せん紙に書いて交流し、友達に考えたことを認めてもらったことで、一人一人に「よいところをもっと伸ばしていこう」とする意欲がわく姿が見られた。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 自分の考えをもつ場面において、心情円板を操作することであいまいな心の中を視覚的に表現することができ、自分なりの言葉で気持ちを表現することができた。
- 心情円板の操作により主人公の揺れ動く心情に気付き、自分たちと同じように弱い心も強い心もそなえた身近な存在としてとらえられるようになり、弱さに負けずによりよい自分になろうという感想が見られ、自分自身を高めようとする気持ちにつながっていった。

2 課題

- 主人公の心情を心情円板の色の量の多さを基準に判断することに終始してしまうことがあったが、心情の理解をより深めていくためにはさらなる話合いの設定が課題である。

3 提言

- 主人公の葛藤する思いや心の変化に迫りたい資料においては、心情円板を操作することで、考えを視覚化でき、心情の変化を追いながら主人公の心の中の揺れ動く気持ちに気付くことができる。心情円板の色の配分の違いを手がかりに、二人組での話合いを小グループや全体に広げて共有するなど、話合いの形態を一層工夫することで、考えをさらに深めていけると考える。

IV 実践及び改善の実際

実践 1

- 1 主題名 「努力を続ける心」 1－(2) 努力・忍耐 (第4学年・2学期)
資料名 「文字を書く喜び」(「どうとく 4年 きみがいちばんひかるとき」 光村図書)

2 本主題及び本時について

本主題の中心価値を、学習指導要領中学年の内容1「主として自分自身に関すること」の(2)「自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる」とした。自分でやろうと決めたことを最後までやり遂げることは、自分自身を高めていく上で意義深いことである。本題材で、あきらめがちな気持ちに負けずに粘り強くやり遂げる精神を育てていきたい。

本資料は、本県出身の「花の詩人」星野富弘さんの実話である。怪我をしてねたきりとなった主人公(星野さん)が、口で文字を書くという自らを表現する方法を知り、生きる喜びを見出すまでの気持ちの変化を追えるよう、本時間の研究上の手だてを以下のように設定した。

- ・心情円板でプラス(積極的な気持ち)とマイナス(消極的な気持ち)の気持ちを表すことで星野さんの葛藤する心を視覚的に表現し、その理由を話すことで話し合いを活性化させる。
- ・困難に負けそうになりながらも、「生きる喜び」を見出していった星野さんの心の動きを視覚的にとらえ、思考の流れが意識できるよう、児童の意見等を整理して板書する。

心情円板を使って視覚化することで、主人公の心に二つの葛藤する思い(プラスの気持ちとマイナスの気持ち)を深く考えさせ、思考の流れを意識させたいと考えた。

3 授業の実際

初めに、事故から2年後、依然として寝たきりで「積極的に生きようとする気持ちがない」という星野さんの気持ちを心情円板で表すとどうなるか、全体に問いかけた。児童は「水色だけ」または「全部水色だけど桃色がほんの少し入る」という考えで一致した。その気持ちが、高久くんに寄せ書きをするときには、「高久くんを励ましたい」という少し前向きな気持ちになり、変化してきたことを全体で確認した。その後、以下のような中心発問を行った。

星野さんは、文字を書く練習をしているとき、どんなことを思っていたでしょう。

ここで児童は初めて個人で心情円板を操作した。星野さんの気持ちを水色と桃色で表した後、二人組で、なぜその色をその分量にしたのか、各々どんな気持ちを表していたかを話し合った。



図1 心情円板を個人で操作する様子

心情円板を用いて、二人組で自分の考えを伝え合う様子(下線は着目したい児童の言葉)

- S1: 水色の部分は、つらいからもうやりたくないという気持ちで、桃色の部分は、それでもがんばろうという気持ち。
- S2: ぼくよりも水色が多いね。ぼくは、桃色がもう少し多くて、やりたくない気持ちに勝ってきていると思う。
- S1: 私の方がマイナスな気持ちが多めだけど、二人とも半分以下だから、星野さんの心の中でプラスとマイナスが戦って、プラスのやる気の方が勝ったんだね。



心情円板をもとにして自分の考えがはっきり視覚化された上で友達と考えを交流していく中で、星野さんの葛藤する気持ちに気付くことができました。文字を書く練習をしていた星野さんが、初めからやる気に満ちあふれていたわけではなく、「なかなかできなくて、もうやめたい」「あきらめたい」というマイナスの気持ちももっており、その気持ちに負けなかったことが分かった。主人公（星野さん）が特別な存在のすごい人であるという見方でなく、自分たちと同じ人間として、苦しみながら弱い心を克服し、努力を続けることができたと思えることができるようになった。

主人公が葛藤しながら「生きる喜び」を見出すまでを整理した板書

心情円板と板書の短冊の色を一致させた。



心情円板
 桃色：プラスの心
 水色：マイナスの心

心情円板と板書の色分けを一致させ、主人公が葛藤しながらも、だんだんとプラスの気持ち「生きる喜び」を感じられるようになってきたことを視覚的にとらえられるようにした。

振り返りの場面においても、児童は板書を見て資料の内容を思い出し、最初の「積極的に生きようとする気持ちがない」という状態から、文字を書くという「生きる喜び」を見出すまでの主人公の気持ちの変化を一目で理解でき、共感することができた。

振り返りの場面（今日の授業で考えたことの発表・下線は着目したい児童の言葉）

S1：練習は苦しくても、その後いいことがあるということが分かりました。だから、絶対にあきらめず、苦しくてもがんばりたいと思いました。持久走大会に向けて、家で練習して、家の人にどうやって走ったら速くなるかを聞いて、努力したいです。

S2：富弘さんはうそを本当にしようかとがんばり続けて、絵までかけるようにした。ぼくはすぐにあきらめてしまうけれど、あきらめずに続けられればできると思っています。見習いたいです。

上記のように、児童は、自分自身の体験やこれからの目標と重ね合わせながら、努力を続けることの大切さについて考えることができた。

4 考察

○主人公の思いに共感し、自分も気持ちの弱さに負けず、よさをさらに伸ばす努力を続けようと考えられるようになった。中心発問で、心情円板の消極的な心情を表す部分に着目し消極的な気持ちを引き出したことで、主人公の葛藤する思いに気付いて話し合うことができ、効果的であったので、すべての発問で心情円板を使うことによりさらなる授業の活性化が図られると考える。

実践 2

- 1 主 題 名 「自分のよさを伸ばす」 1－(5) 個性伸長 (第4学年・2学期)
資 料 名 「うれしく思えた日から」(「小学校道徳 読み物資料集」 文部科学省)

2 本主題及び本時について

本主題の中心価値を、学習指導要領中学年の内容1「主として自分自身に関すること」の(5)「自分の特徴に気付き、よいところを伸ばす」とした。人は、一人として同じ人はなく、様々な点で一人一人違っている。自分の特徴を知ることが、他と比べて特に目立つ点に気付くことであり、それには長所も短所も含まれる。両者を知った上でよいところをさらに伸ばし、自分の個性を伸ばすようにするのである。そこで、自分のよさを伸ばし、自分の可能性を広げ、自分らしさを作り出していこうとする態度を育てたいと考えた。

本資料の主人公ぼく(しょう)は、あまり目立たなく、よいところなんてひとつもないと思っていた。しかし、ある日のソフトボール投げで30mを超える記録を出した。周りのみんなから誉められたり、野球チームに誘われたりしていく中で、自分にもよいところがあるのだと自信をつけ、野球チームの一員として力を伸ばしていくという内容である。

自分のよさに気付き、そのよさを伸ばしていこうという気持ちをもてるようになったぼくの心の中にはどんな思いがあったのかを考えさせながらねらいとする価値に迫るために、実践1の手だてを以下のように改善・追加した。

- ・すべての発問において、個人で心情円板を操作し、色の配分をもとにしてなぜそう考えるのかを伝え合う。
- ・心情円板と関連付けながら、児童の思考の流れを意識した板書を行う。
- ・振り返りの場面で、友達の発表のよさを付せんに書いて交流する。

心情円板の操作を、すべての発問において行うことで、児童は積極的に自分の考えをもととするだろう。さらに、その心情円板を活用して整理して板書することで、主人公の心の変化を視覚的にとらえながら、共感したり自分自身を振り返ったりすることが期待できる。また、考えのよさを友達から伝えてもらうことによって、自分の考えに自信をもつことができると考える。

3 授業の実際

資料について話し合う場面において、以下のような発問を行い、その都度、個人の心情円板を操作しながら主人公「ぼく」の心の中を表現させ、それぞれの発問に対して自分の考えをもつ補助として活用させた。

- ①うれしく思える日が来る前の「ぼく」は、自分のことをどう思っていたでしょう。
- ②「ぼく」は、どんな気持ちから、「野球をやってみたいんだけど。」と言ったのでしょうか。
- ③野球チームに入って、一年になる「ぼく」は、どんな気持ちでいるのでしょうか。

児童は自分の手元にある心情円板を操作することで、主人公「ぼく」の気持ちに寄り添い、共感しながら、それぞれの発問に対する自分の考えをしっかりとつことができた。

多くの児童に共通する心情円板の状態を板書にも活用し、主人公「ぼく」の心にだんだんと桃色(プラスの感情)が多くなったことが示され、心の変化が目に見えて分かった。初めは水色(マイナスの感情)が多かったがだんだんと桃色が増えてきていることから、「自信が付いてきたから、他のこともがんばれるようになった」「試合に出られなくても、いいところを生かしてがんばろうと思えるようになった」と、児童は中心発問に対する自分の考えを発言することができた。主人公が自信を付け、まだ少し水色(マイナスの感情)もあるけれど、それに負けずにがんばろうとしている気持ちに共感

することができた。

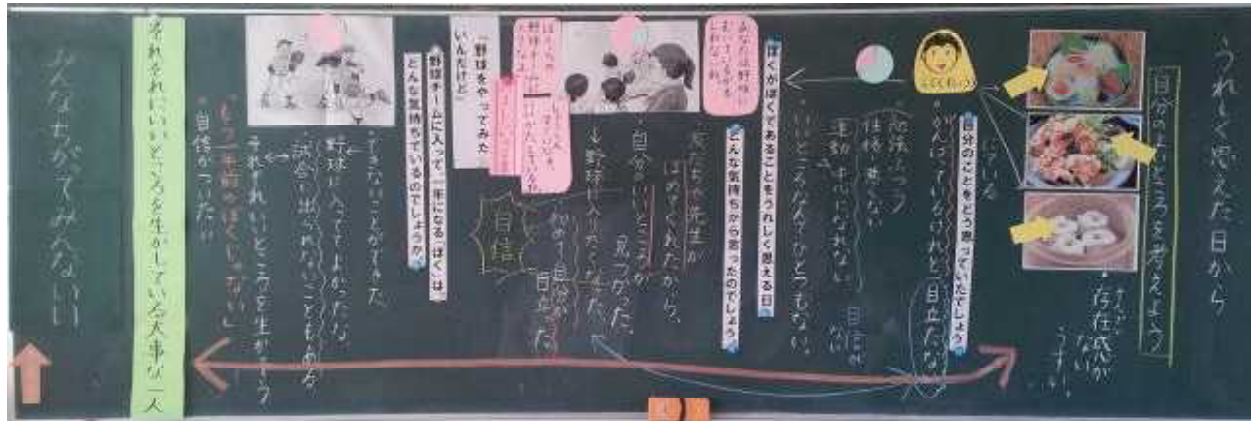


図2 心情円板を活用した板書

資料の話合いの後、自分を振り返る場面において「自分にとってのおまじないの言葉」を思い出し、グループで発表した。発表後には、友達への励ましの言葉を書いて、付せんを交換し合った。

付せんの交流場面の様子（下線は着目したい児童の言葉）

T：今までに、自分にとっての「おまじないの言葉」となったものはありますか。その言葉のおかげで自分はどう変わりましたか。グループで伝え合いましょう。友達の発表を聞いたら、感想や励ましの言葉を付せんに書き、一言添えて渡してください。

S1：私は、国語のノートとかで字がきれいですと言われて、これからもっときれいに書こうと思いました。

S2：本当に〇〇さんは字がとてもきれいだね。すごいね。

S3：国語のノートきれいなんだね。これからも続けてね。ぼくも見習いたいと思います。

S1：ありがとう。誉めてもらうととてもうれしくて、もっとがんばりたいという気持ちになります。



友達から励ましの言葉を書いてもらったことで、そのよさを生かしてさらにがんばろうとする気持ちが高まった様子であった。

振り返りの場面（今日の授業で考えたことの発表・下線は着目したい児童の言葉）

S1：自分では目立たないと思っても、絶対自分によいところがあると思う。なぜかという、大事な一人だから。私も、自分のよいところをもっともっと伸ばしていきたいと思います。

S2：自分のよいところの一つ見付けて、しょう君は何でもできるようになりました。だから、私も一つでもよいところを見付けて何でもできるようになりたいと思いました。

自分自身と重ね合わせながら主人公の思いに共感し、かけがえのない自分の存在の大切さを感じながらよりよい自分になろうとする気持ちをもつことができた。

4 考察

○心情円板を板書に活用したことで、主人公が葛藤しながらも、心が前向きに変化してきた様子がより明確に分かるようになった。また、心情円板の操作により主人公の揺れ動く心情に気づき、自分自身も弱さに負けずによりよい自分になろうという感想が見られた。